

[担当教員]

槻橋修（准教授） 松本猛（安井建築設計事務所） 鄭弼溶（アクセス都市設計）

[Teaching Assistant]

梶山彩花（A71） 舟木健太郎（A71） 落合洸介（A71）

■課題概要

現代都市に暮らす人々にとって、子供を産み育てることには様々な課題がある。要因としては核家族化による地縁の希薄化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加、単親世帯の増加などが挙げられる。子育ての負担が親に集中することが、都市でのライフスタイルとの間でストレスを生み、育児ノイローゼや幼児虐待といった招かれざる事態の遠因ともなっている。

従来より社会における「発達保障」の場として児童福祉施設は整備されてきているが、現代のような家族観、自然観が多様化する時代において、都市は子供達に、また子供を育てる親たちに、どのような場所を提供すればよいだろうか。本課題では以下に挙げる3つの方向性からひとつを選択し、子供のための空間、都市における福祉のあり方について考えてもらいたい。

- (1) 次世代をにう児童達が、健やかに育つための支援環境として、自由に利用できる施設。
- (2) 子育てに関わる様々な人が自由に集まり、交流するための施設。
- (3) 乳幼児の発達保障の場、生活空間を提供する施設。

3つの施設が、交差点を中心に子育てスクエアとして一体的な空間をつくるように、それぞれが尊重すべき共通のデザインの方針（デザインコード）を設定することが望ましい。

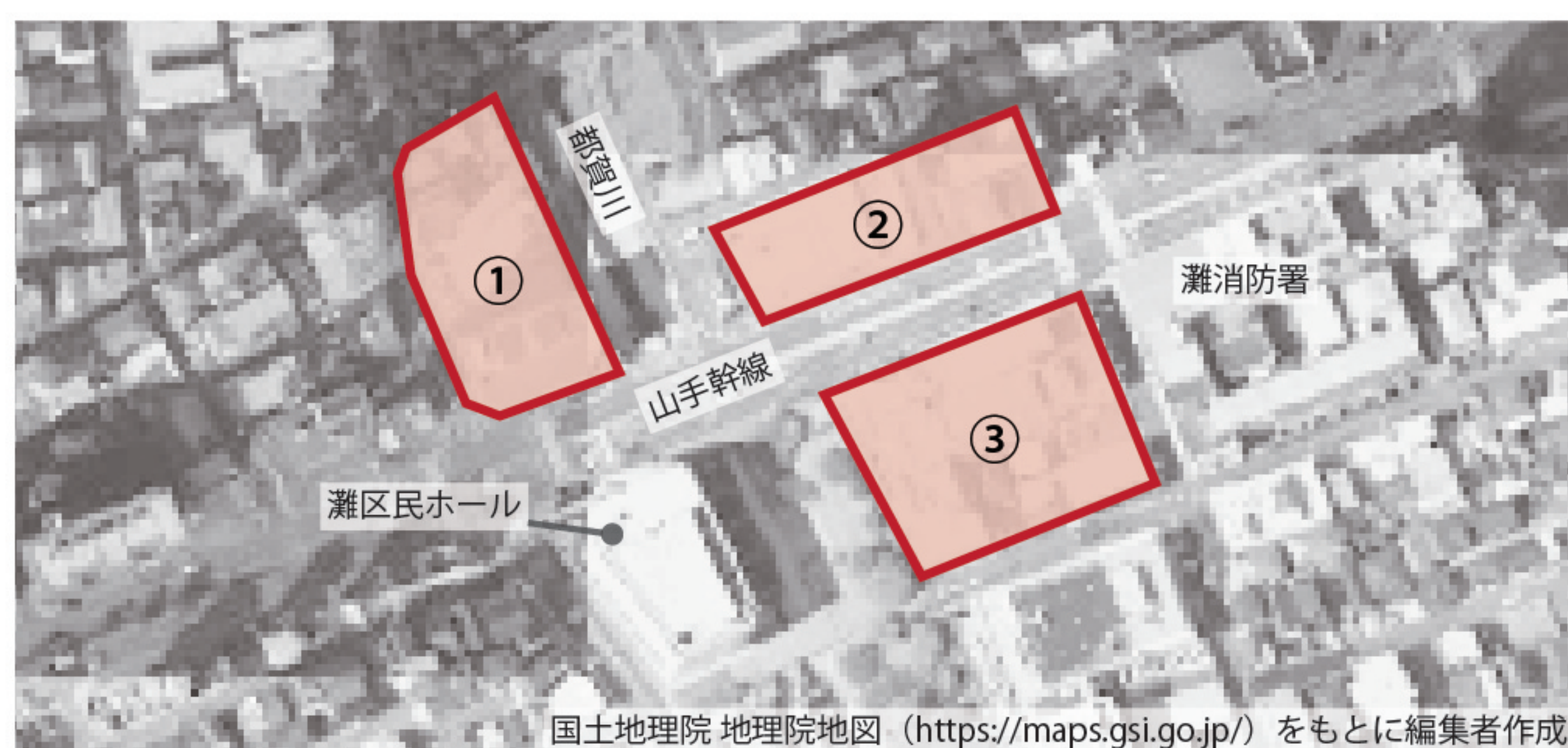
■敷地

(1) 下図に示すような、灘区都賀川沿いの敷地を想定する。

- ・「児童館」敷地①約 2030 m²＝東西 30m× 南北 70m(変形あり)
 - ・「子育てカフェ」敷地②約 1550 m²＝東西 62m× 南北 25m
 - ・「保育所」敷地③約 3100 m²＝東西 62m× 南北 50m
 - ・用途地域等（近隣商業地域 / 建蔽率 80%, 容積率 400%, 防火地域）
- (2) 河川公園に隣接する敷地で、周辺は住宅地。

■建物概要

- ・「児童館」：延床面積 1000 m²前後。構造、階数は自由とする。
- ・「子育てカフェ」：延床面積 800 m²前後。構造、階数は自由とする。
- ・「保育所」：延床面積 1000 m²前後。RC 造、鉄骨造、または、木造（準耐火建築物）。階数は自由とする。



国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成

課題敷地

基準線を解放せよ

吉川日々輝

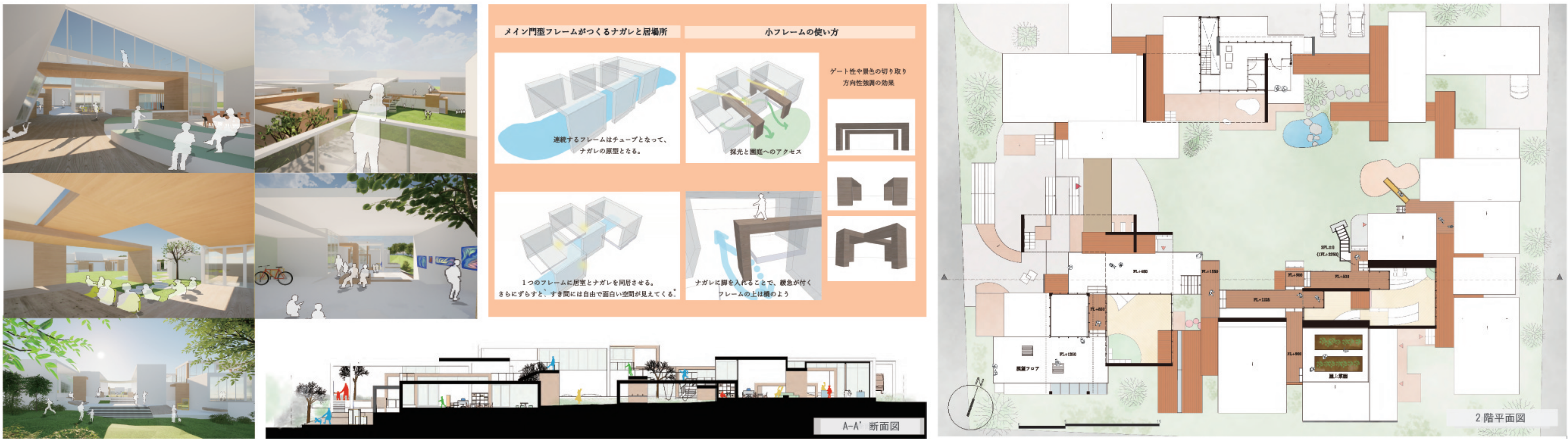
空間を分割することに用いられることが多いグリッドを、空間を横断するものとして使用し設計に応用する。1200mm×1200mm を最小単位とし、グリッドを超えた壁、床、屋根、梁は不規則にバッファー空間を生む。様々な居場所に子どもたちが無限大の遊び方を見出してくれることを願う。



川のほとりで子らはせせらぐ

磯野巧輔

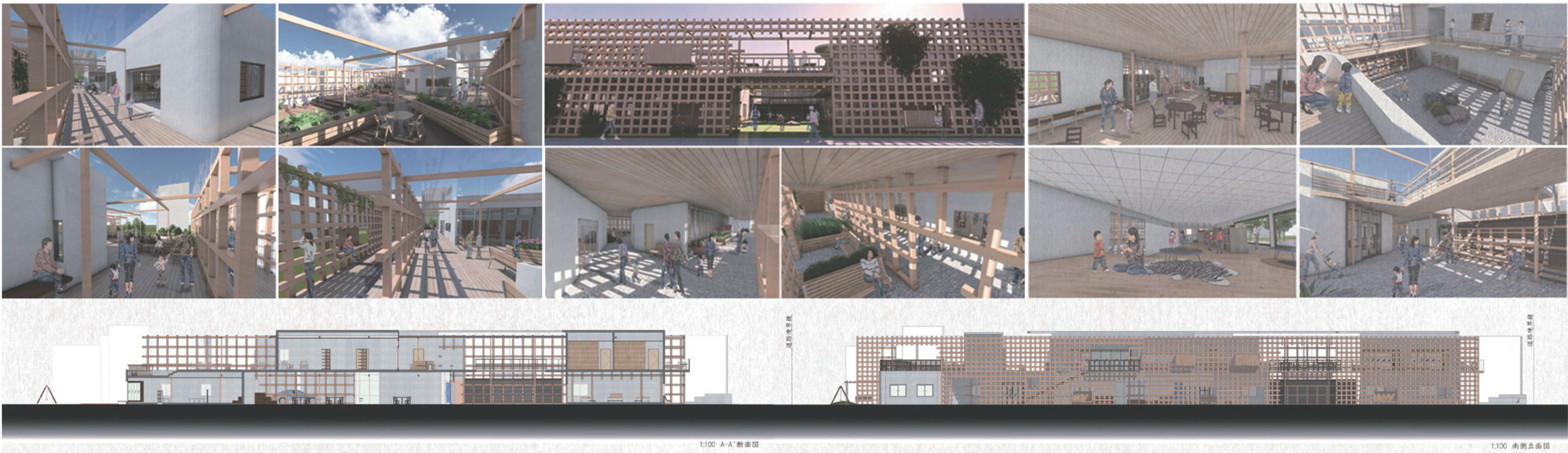
この保育園での生活が園児らの成長の大きな糧となるよう、多種多様なきずな形成のシーンを「おともだちとの距離感」に着目して設計する。門型フレームが動線と居場所空間との関係のリズムを演出し、そのリズムのもとで、こども達は日々新たな発見や学びに出会う。



フィノマジワリ

桑野健太郎

近年、社会活動の中で新しい出会いが少なくなっている。特に子育て世代というのは様々な手助けを必要とするが、そのような相手が少ない事が現状である。ここでは格子を出会いのツールのひとつとして、カフェを中心としたオープンスペースの展開により思いがけない出会いを演出する。



川のほとりに

野口翔

現代では、子育てにおけるストレスや不安を一人で抱え込む親が多く社会問題となっている。この子育てカフェでは、川で遊ぶ子どもとそれを見守る親のような風景を再現し、水辺の気軽な交流を取り入れることで子育てに悩む人々の心のよりどころとなることを目指した。

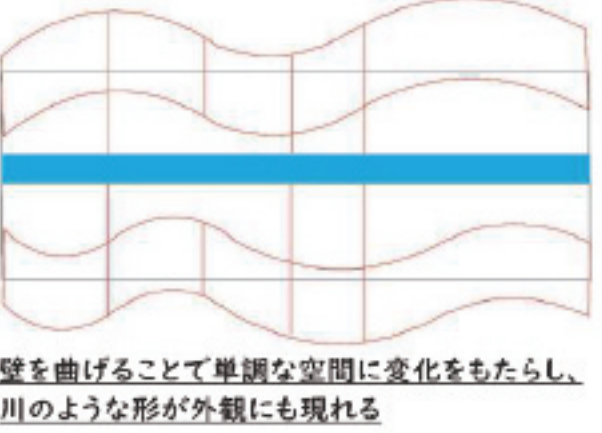


・ダイアグラム

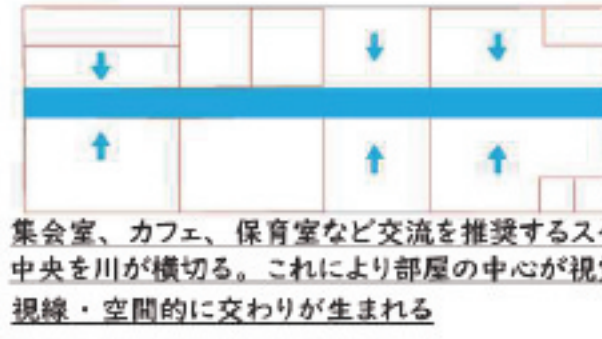
① 部屋を配置する



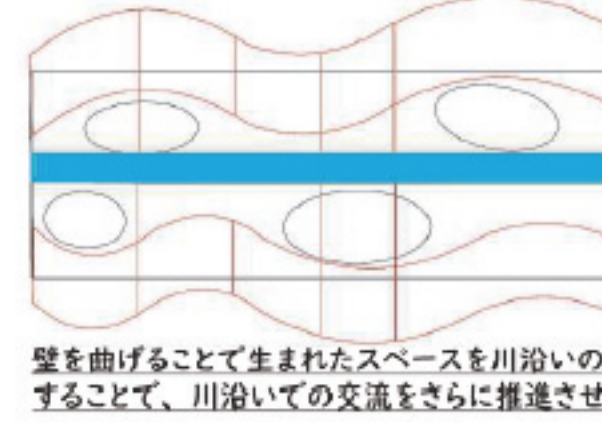
③ 壁を曲げる



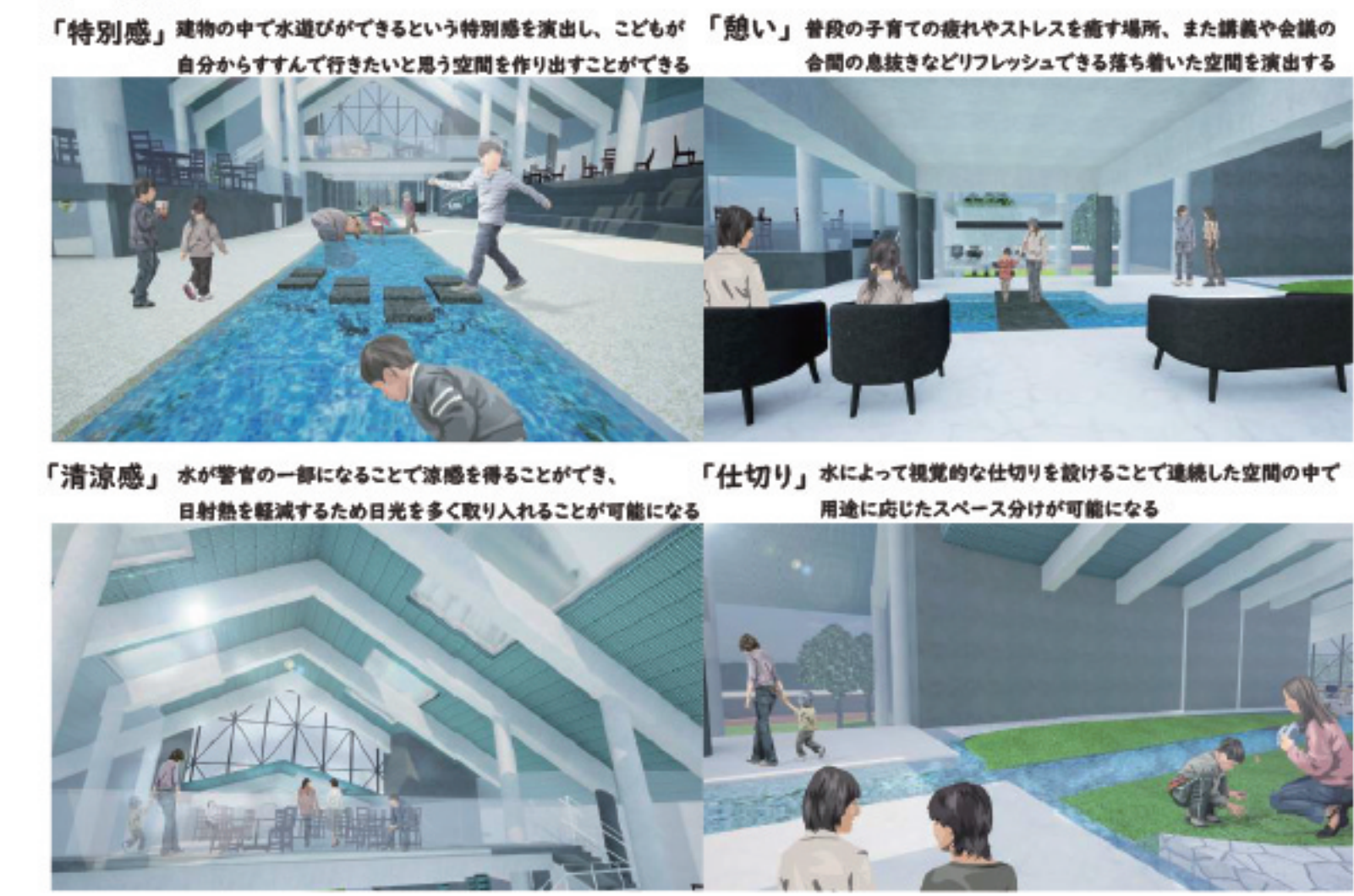
② 中央に川を通す



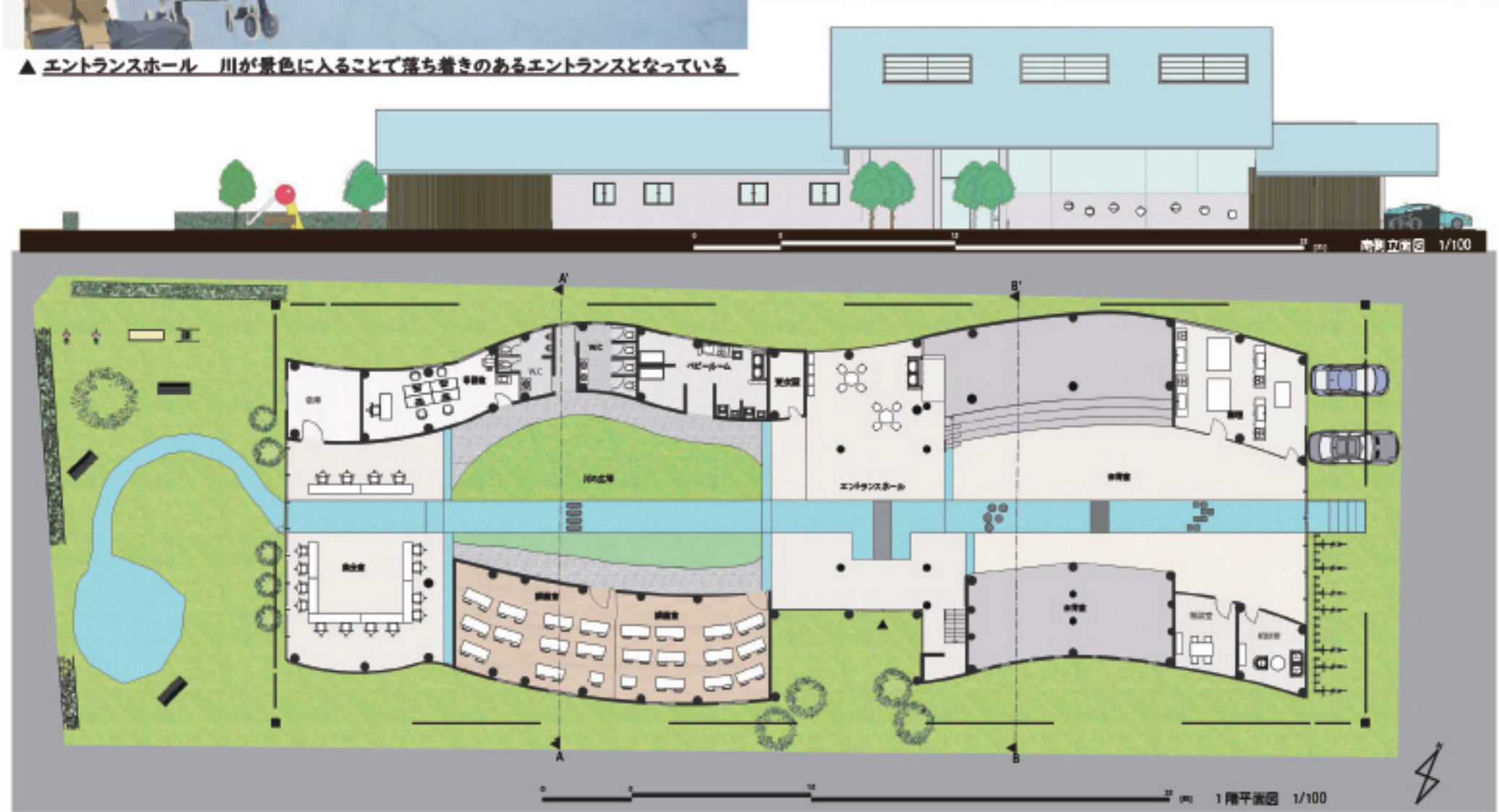
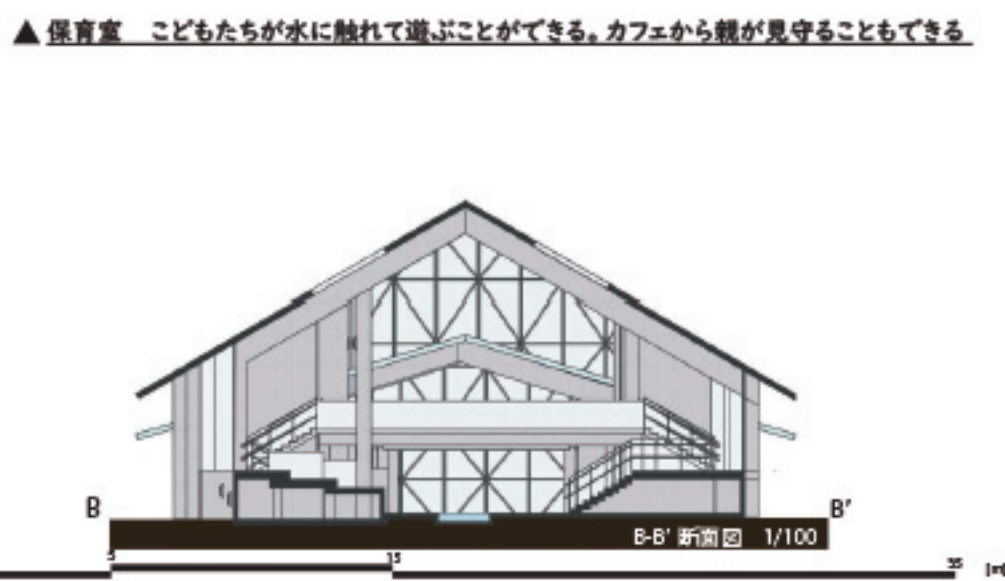
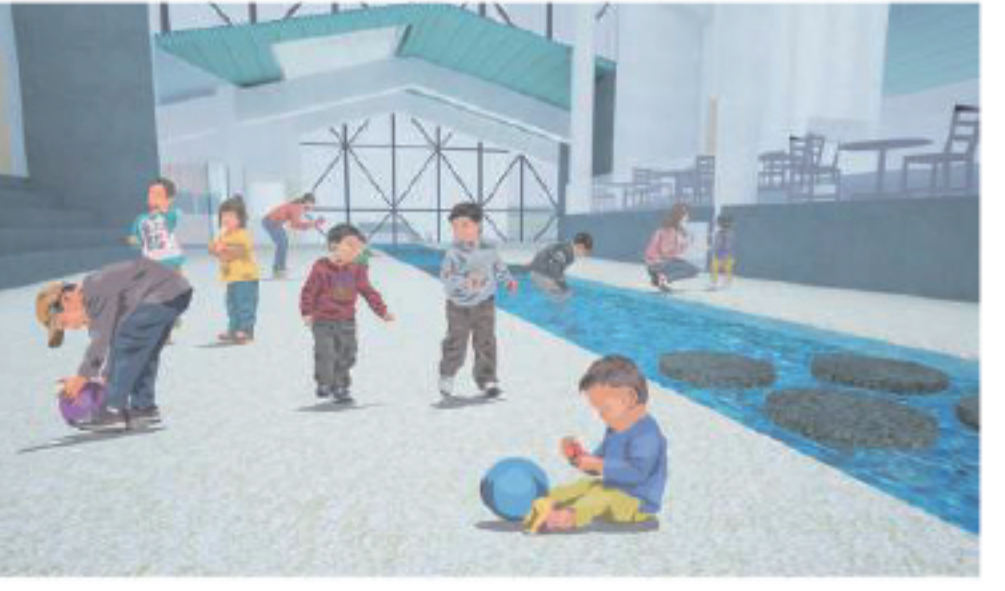
④ 川沿いにスペースが生まれる



・水の働き



▲ 堤防をイメージしたカフェ（北側）。階段を昇った上のカフェスペースに加え、階段に降りながら子供を見守ることもできる



ただいまの場所

澤田陽菜

親や子それぞれの関係を深める仕組みを取り入れつつ乳幼児の成長に寄り添い過ごし方に変化の生まれる保育所を提案する。基礎形成において重要な段階にある子ども達が1日の大半を過ごす施設が第2の家のように心地よくあること、また変化に富んだ日々を過ごせる場所となることを願う。

